

『東海道名所図会』の視点

富澤 達三

はじめに

江戸時代中期、幕藩体制は安定し、日本国内は平和な時代が続いた。各地で農林水産業の生産が増加し、江戸・大阪・京都などの大都市は五街道とそれらを補う脇街道で結ばれた。三代将軍・徳川家光の時代に参勤交代制度（外様大名には1635年より、譜代大名に対しては1642年に制度化）が作られ、庶民だけでなく、大名たちも江戸と領国を行き来した。生産力の向上で商品や情報流通の活性化は進み、交通路の重要性は増していく。大量の物資の運搬には海路が使われ、東・西回りの沿岸航路が成立する。各国で生産された、米穀をはじめとする大量の生産物は、「天下の台所」大阪に集積されたのち、全国へ送られた。地域と地域を結んだ全国的経済圏は、年々拡大したのである。

1 名所図会の時代

(1) —— 「などころ」から「めいしょ」へ

全国経済の発展とともに、人々の生活にも余裕が生まれ、寺社・古跡・景勝地などの「名所（めいしょ）」を訪れる旅行がさかんとなる。本来「名所」は「などころ」と読み、勅撰の八大集に加えた十三集、合計二十一の歌集に収録された和歌で詠まれた地名である。和歌に詠まれていない土地は有名であっても「古跡」という。また「などころ」はあくまで歌枕で、実際に訪れるべき場所ではなかったが、近世になると^{みやび}「などころ」の地は、実際に訪れて楽しむ「名所（めいしょ）」となったのである。そして、多くの庶民へ名所の情報を伝え、旅へのあ

こがれを掻き立てたメディアが、名所を挿図と文章で紹介した地誌「名所図会」であった。

「名所図会」の嚆矢は、京都寺町五条上ル町の本屋・吉野屋為八（殿為八）が企画し、読本作家で俳諧師の秋里籬島（²）の文章・竹原春朝斎の挿図による『都名所図会』（安永9年＝1780）である。同書が爆発的な売れ行きをみせると、名所図会ものが続々と出版された。それらは地域や国ごと、または街道別に出版され、情報の正確さや鳥瞰図風の緻密な挿図で、生活に余裕を持ち、旅に遊ぶことを夢見る人々や、実際に旅を経験した人々を購買対象とし、続々と作られていったのである。

版元・吉野屋為七が『都名所図会』を刊行した経緯については、滝沢馬琴の随筆『異聞雑考』の「吉野屋為八」⁽¹⁾の項に詳しい。

京都、五条に住む商人の吉野屋為八は、米穀・燈油売買で投機的な商売を行って大成功し豊かになったが、飲酒・色事はもとより、漢詩・和歌・俳諧などの風流の楽しみを知らなかった。ある日、為八は「自分は京都生まれなので、京都の図会本を出版して売り出したならば楽しいに違いない」と考えた。そこで知人の本屋に相談すると、本屋いわく「それぞれの本には『板株』という出版営業権があり、板株を所有する者でなければ、本の出版はできない」と教えてくれた。そこで為八は京都で出版されていた名所記の板株を本屋からすべて買い取り、図会の出版に抗議が出ないようにした。これらの板株買い取り料は、合計300両にもなったという。

板株を取得した為八は、俳諧師の秋里籬島⁽²⁾と画工の竹原春朝斎に計画を語ると、二人とも承知した。為八は二人の生活を保証し、丸抱えにして3

年で原稿が完成、版木の完成まで5～6年を要し、全ての費用は2000両を越えたという。こうして完成した『都名所図会』であったが、為八の予想に反して思うようには売れなかった。しかし楽しみでしたことゆえ、ゆくがままに過ごしていた。ところが、大坂城代であった若狭小浜の藩主・酒井侯が所要で江戸に参向の際、懇意の者への土産として『都名所図会』を十数部持って行ったところ、これが評判となって、翌年には4000部余も売れ、為八は2000両の元手を2年で回収し、なお余剰金が出たという。

『都名所図会』は刷りに刷りを重ね、天明6年(1786)正月には再刻本が出版された。吉野屋為八は本書で巨利を得、天明9年(1780)に続編ともいふべき『拾遺都名所図会』(秋里籬島文、竹原春朝斎画)を刊行する。その後、名所図会もの大ヒットに注目した京都の版元小川多左衛門が、秋里籬島・竹原春朝斎のコンビで『大和名所図会』(寛政3年=1791)を出版する。吉野屋為八も江戸の版元西村源六・雁金屋治上右衛門らとともに『住吉名所図会』(秋里籬島文、岡田玉山画)を寛政6年(1794)に出版し、摂津・伊勢・河内・紀伊・江戸などの地域を取り上げた名所図会が続々と作られていったのである。⁽³⁾

2 『東海道名所図会』を読む

(1) —— 『東海道名所図会』の挿図分類

『東海道名所図会』⁽⁴⁾(寛政9年=1797)は、本文を秋里籬島、挿図は竹原春泉斎(『都名所図会』などで籬島と組んだ竹原春朝斎の子)以外に、円山応挙・鋏形蕙斎(北尾政美)ら総勢30名が担当している。版元は京都の田中庄兵衛・吉野屋為八(殿為八)らで、江戸の版元も須原茂兵衛(須原屋)以下3名が名を連ねた。

『東海道名所図会』の挿図は199点あり、おおよそ以下のように分類できる。⁽⁵⁾

- ① 神社仏閣…77件
- ② 景勝・古跡…77件

- ③ 建築物 …5件
 - ④ 繁華の場…28件
 - ⑤ 市場・生産の場…12件
- (以上、合計199点)⁽⁶⁾

「①神社仏閣」は宮中の年中行事や、伝統ある神社や仏閣の縁起・祭礼を挿図と文章で紹介したものである。祭礼を挿図と文書で紹介し、古歌・漢詩が添えられる。

「②景勝・古跡」は自然が作り出した雄大な景観や奇景・古跡を紹介するのみならず、その地に関連する歴史的事件の想像図が描かれ、歴史書・紀行文など古典籍よりの引用、関連する和歌・俳句などが載る。跋文から秋里籬島は京都から江戸までを実際に旅し、現地取材を行ったことが知られる。なお、当時のコレクターによる奇石の収集や寺院の宝物類も当分類に含めた。

「③建築物」には橋が該当する。江戸幕府は戦略上、大河に橋を架けなかったが例外もあった。岡崎の矢矧橋、三河国豊川の豊橋、近江国の勢田橋⁽⁷⁾などである。かつて架けられていた橋(遠州・浜名橋)を想像して描いた図⁽⁸⁾もある。

「④繁華の場」は、大勢の人々が集う繁華の場所を描いたもので、港湾などの交通の要衝、名物を売る大店・遊郭・温泉・名水などである。例えば「梅木の和中散」(90・91頁)や「草津の姥ヶ餅」(86・87頁)、そして性産業(三島の飯盛女)すら描かれた(32・33頁)。

「⑤市場・生産の場」の図は、雅な「などころ」の風情から最もかけ離れた、新たな名所^{めいしょ}であろう。江戸時代、各地で生産力が発展するなか、様々な農産物・加工品・工芸品が生産され、江戸・京都・大坂・名古屋などの巨大消費地や地方都市で売買された。「草津の青花栽培」(44・45頁)「池鯉鮒の馬市」(50・51頁)「大森の海苔栽培と加工」(56～59頁)「日本橋魚市場」(38・39頁)など商業・農業・漁労の場が描かれた。これらは人間が自然や家畜と向き合い、時には危険な場所や厳しい気象条件下で行われる厳しい作業であった。しかし、過酷な労働環境のなかで、道具を工夫して自然の恵みを最大限に利用し、商品作物を生産する人々が現れたのである。



図1 千葉正樹氏による『江戸名所図会』の視点分類

「④繁華の場」「⑤市場・生産の場」を描いた図は、『東海道名所図会』の挿図全体で見れば、20%弱とやや少ないが、近世後期の庶民の生産力向上と経済活動の活発化を象徴したエネルギッシュな風景であり、籬島たち製作者の創作意欲を大いに喚起させたのであった。⁽⁹⁾

(2) —— 近景・中景・遠景・超遠景

近年、千葉正樹氏は『江戸名所図会』の視覚分析を進め、新たな近世図像学・文化史学を開拓している。同氏は『江戸名所図会』の図像の視点距離を以下の4つに分け、画像分析を行った。千葉氏の提示した4つの視点分類は以下の通りである。⁽¹⁰⁾

1、近景……10m内外の視点で対象を描く。男女・老若・身分や職業など人物の属性、服装の文様、個々人の容貌・建物の部材・小動物、店先の商品内容にいたるまで精密に書き分けている。建物の場合、

瓦の一枚一枚まで丹念に描かれている。

2、中景……数十mくらいからの視点である。目・鼻・口は一本の線で表現され、容貌の特徴はうかがえないが、服装や髪型・持ち物から人物の属性を判断できる。建築物はやや省略されるが、瓦葺屋根の場合、棟の先端に鬼瓦を描き、棟と軒を2～3本の直線で表現し、瓦の連なりを示す縦の平行線があり、瓦葺屋根だと判定できる。

3、遠景……対象から100m以上。人物の目鼻は消え白抜きとなるが、服装や髪型のアウトラインは読み取れる(例：武士は二本差し)。屋根の材質はわからない。

4、超遠景……対象から数百m。人物は縦の線で表現され、屋根は白い方形となり、材質は完全に不明となる。

※図1は千葉氏の『江戸城が消えていく』155頁より引用。

表1 『東海道名所図会』 画像分類

巻	題名(本文等を参照した)	分類	視点	本書収録頁
1	小朝拜	①神社仏閣	①近景	
2	小朝拜(続き)	①神社仏閣	①近景	
3	坂本の山王祭	①神社仏閣	①近景	64・65頁
4	石山寺什宝 紫式部古硯	①神社仏閣	①近景	
5	熱田神宮 踏歌神事	①神社仏閣	①近景	
6	熱田御神社 烏喰神事	①神社仏閣	①近景	
7	吉田天王祭	①神社仏閣	①近景	72・73頁
8	三島大社のお田打ち	①神社仏閣	①近景	74・75頁
9	鶴岡若宮での静御前の舞	①神社仏閣	①近景	
10	矢口村新田明神社由来	①神社仏閣	①近景	
11	鈴が森神社 烏石	①神社仏閣	①近景	
12	山王祭 鷹崎神供	①神社仏閣	②中景	
13	津島祭	①神社仏閣	②中景	70・71頁
14	熱田鎮皇門楼上神幸の祭式	①神社仏閣	②中景	
15	江ノ島例祭	①神社仏閣	②中景	
16	近松御坊世壽寺牛塔	①神社仏閣	③遠景	
17	唐崎社一ツ松	①神社仏閣	③遠景	
18	山王二の宮十禪師	①神社仏閣	③遠景	
19	堅田浦 浮御堂	①神社仏閣	③遠景	
20	大津京町 四宮御神 精大明神	①神社仏閣	③遠景	
21	義仲寺 芭蕉塚	①神社仏閣	③遠景	
22	石山寺門前 東寺が崎	①神社仏閣	③遠景	
23	石山寺	①神社仏閣	③遠景	
24	国分寺 芭蕉翁幻住庵古跡	①神社仏閣	③遠景	
25	岩間寺	①神社仏閣	③遠景	
26	鷹崎 八幡宮	①神社仏閣	③遠景	
27	飯道寺	①神社仏閣	③遠景	
28	土山 田村明神社	①神社仏閣	③遠景	
29	鈴鹿社	①神社仏閣	③遠景	
30	関 地藏院	①神社仏閣	③遠景	
31	太神宮別道	①神社仏閣	③遠景	
32	日本武尊陵	①神社仏閣	③遠景	
33	石薬師寺	①神社仏閣	③遠景	
34	多度山	①神社仏閣	③遠景	
35	津島 牛頭天王	①神社仏閣	③遠景	
36	宮崎 浜鳥居	①神社仏閣	③遠景	
37	熱田 八剣宮 御所前 撰社末社	①神社仏閣	③遠景	
38	熱田 大宮 正殿 土用殿	①神社仏閣	③遠景	
39	古渡 高倉神社	①神社仏閣	③遠景	
40	笠守	①神社仏閣	③遠景	
41	鴨海神社 蕉翁 千鳥家	①神社仏閣	③遠景	
42	知立神社	①神社仏閣	③遠景	
43	鳳来寺	①神社仏閣	③遠景	
44	鳳来寺惣門	①神社仏閣	③遠景	
45	蔵庭 鶴音	①神社仏閣	③遠景	
46	秋葉山 一鳥居	①神社仏閣	③遠景	
47	秋葉山社	①神社仏閣	③遠景	
48	阿波が岳 阿波波神社	①神社仏閣	③遠景	

49	草薙神社	①神社仏閣	③遠景	
50	村松久能寺	①神社仏閣	③遠景	
51	清見崎 清貝寺	①神社仏閣	③遠景	
52	三島神社 鳥居前	①神社仏閣	③遠景	
53	三島神社	①神社仏閣	③遠景	
54	江ノ島弁天堂	①神社仏閣	③遠景	
55	竜口寺 日蓮上人旧跡	①神社仏閣	③遠景	
56	鶴岡八幡宮	①神社仏閣	③遠景	
57	鶴岡八幡宮(続き)	①神社仏閣	③遠景	
58	由井兵 大鳥居	①神社仏閣	③遠景	
59	建長寺	①神社仏閣	③遠景	
60	円覚寺	①神社仏閣	③遠景	
61	光明寺	①神社仏閣	③遠景	
62	藤沢 清浄光寺	①神社仏閣	③遠景	
63	大師河原 平間寺	①神社仏閣	③遠景	
64	三田八幡宮	①神社仏閣	③遠景	
65	芝の壇上寺	①神社仏閣	③遠景	
66	逢坂山 関明神 蟬丸祠	①神社仏閣	④超遠景	
67	三井寺	①神社仏閣	④超遠景	
68	三井寺(続き)	①神社仏閣	④超遠景	
69	尾蔵寺 近松寺 八詠楼	①神社仏閣	④超遠景	
70	東坂本 西教寺 采迎寺	①神社仏閣	④超遠景	
71	日吉山王	①神社仏閣	④超遠景	
72	比叡山 四明峰	①神社仏閣	④超遠景	
73	比叡山 四明峰(続き)	①神社仏閣	④超遠景	
74	田神不動寺	①神社仏閣	④超遠景	
75	大山寺 一鳥居	①神社仏閣	④超遠景	
76	大山寺	①神社仏閣	④超遠景	
77	神奈川 駅の南 芝生 浅間社	①神社仏閣	④超遠景	
78	逢坂山 関寺 小町	②景勝・古跡	①近景	
79	蟬丸	②景勝・古跡	①近景	
80	志賀里	②景勝・古跡	①近景	
81	志賀寺の上人	②景勝・古跡	①近景	
82	明智光秀の湖上渡り	②景勝・古跡	①近景	
83	今井四郎 兼平の 粟津原血戦	②景勝・古跡	①近景	
84	石山の 蛭狩り	②景勝・古跡	①近景	66・67頁
85	秀郷 竜宮城に至る	②景勝・古跡	①近景	
86	六玉川の中 野路玉川	②景勝・古跡	①近景	
87	石亭	②景勝・古跡	①近景	
88	草津駅の活人石を 観る 琉球人	②景勝・古跡	①近景	
89	金勝山の 霊岩	②景勝・古跡	①近景	68・69頁
90	田村将軍の 鬼人退治	②景勝・古跡	①近景	
91	桶狭間の 戦	②景勝・古跡	①近景	
92	桶狭間の 戦(続き)	②景勝・古跡	①近景	
93	在原 兼平 吾妻下り	②景勝・古跡	①近景	
94	牛久保山 本勘助の 故居	②景勝・古跡	①近景	
95	引馬野	②景勝・古跡	①近景	
96	さざんざの 松	②景勝・古跡	①近景	
97	天竜川を 渡る 船田入道	②景勝・古跡	①近景	
98	遠州桜が 池	②景勝・古跡	①近景	

150	富士山鳥瞰図	②景勝・古跡	④超遠景
151	箱根駅 関所周辺	②景勝・古跡	④超遠景
152	箱根権現社	②景勝・古跡	④超遠景
153	箱根小地獄	②景勝・古跡	④超遠景
154	金沢能見堂 筆捨松	②景勝・古跡	④超遠景
155	平安城三条橋	③建築物	③遠景
156	勢田橋	③建築物	③遠景
157	矢矧橋	③建築物	③遠景
158	吉田豊川の豊橋	③建築物	③遠景
159	遠州浜名橋	③建築物	③遠景
160	祇園の賑わい	④繁華の場	①近景
161	東三条の送迎風景	④繁華の場	①近景
162	走井の名水	④繁華の場	①近景
163	大津の遊郭	④繁華の場	①近景
164	草津追分	④繁華の場	①近景
165	宿場の往来	④繁華の場	①近景
166	旅館の宿入り	④繁華の場	①近景
167	雷田の焼き蛤	④繁華の場	①近景
168	七里の渡し	④繁華の場	①近景
169	道中の震助	④繁華の場	①近景
170	藤枝瀬戸の菜め飯	④繁華の場	①近景
171	安部川川の渡し	④繁華の場	①近景
172	三島宿の夕暮れ	④繁華の場	①近景
173	箱根塔沢の温泉宿	④繁華の場	①近景
174	小田原いろいろ	④繁華の場	①近景
175	大森の麦わら細工店	④繁華の場	②中景
176	草津の焼ケ餅	④繁華の場	②中景
177	目川の茶店	④繁華の場	②中景
178	梅木和中散の店構え	④繁華の場	②中景
179	坂下宿本陣	④繁華の場	②中景
180	岡崎宿の朝	④繁華の場	②中景
181	大井川を渡る大名行列	④繁華の場	②中景
182	大井川の渡し	④繁華の場	②中景
183	箱根湯本の拵物細工店	④繁華の場	②中景
184	矢橋 渡口場	④繁華の場	③遠景
185	富士川の渡船	④繁華の場	③遠景
186	高輪の茶店	④繁華の場	③遠景
187	京橋から新橋へ	④繁華の場	③遠景
188	大津絵販売店	⑤市場・生産の場	①近景
189	草津の青花紙	⑤市場・生産の場	①近景
190	桑名の海	⑤市場・生産の場	①近景
191	阿波手の社と漬け物	⑤市場・生産の場	①近景
192	有松絞	⑤市場・生産の場	①近景
193	池鯉鮒の馬市	⑤市場・生産の場	①近景
194	大森の海苔採取	⑤市場・生産の場	①近景
195	大森の海苔作り	⑤市場・生産の場	①近景
196	江戸湾の漁業	⑤市場・生産の場	①近景
197	江戸の本屋	⑤市場・生産の場	①近景
198	日本橋魚市場・お江戸日本橋	⑤市場・生産の場	②中景
199	駿河湾の地曳網業	⑤市場・生産の場	③遠景

近景…78点、中景…18点、遠景…77点、超遠景…25点となった。

99	志留波磯	②景勝・古跡	①近景
100	秋葉山中の茶店	②景勝・古跡	①近景
101	菊川宿	②景勝・古跡	①近景
102	宗尊王 宇津の山通行	②景勝・古跡	①近景
103	富士川水鳥古跡	②景勝・古跡	①近景
104	竹取翁 かぐや姫	②景勝・古跡	①近景
105	富士裾野での瓜あげ	②景勝・古跡	①近景
106	富士の牧狩	②景勝・古跡	①近景
107	富士の牧狩(続き)	②景勝・古跡	①近景
108	曾我兄弟の敵討	②景勝・古跡	①近景
109	足柄山での秘曲伝授	②景勝・古跡	①近景
110	門覚上人と千本松原	②景勝・古跡	①近景
111	頼朝義経再会之地	②景勝・古跡	①近景
112	秋の鴨立沢	②景勝・古跡	①近景
113	稲村が崎	②景勝・古跡	①近景
114	土牢内の護良親王	②景勝・古跡	①近景
115	滑川の青戸藤綱	②景勝・古跡	①近景
116	西行と銀猫	②景勝・古跡	①近景
117	小栗小次郎の伝	②景勝・古跡	①近景
118	玉川	②景勝・古跡	①近景
119	一日吉山王三十六歌仙(三枚紙)	②景勝・古跡	②中景
120	野路 玉川古跡	②景勝・古跡	②中景
121	平松山美松	②景勝・古跡	②中景
122	池田宿の平重衡	②景勝・古跡	②中景
123	鴨立沢 鴨立庵	②景勝・古跡	③遠景
124	筆捨山	②景勝・古跡	③遠景
125	四日市那古浦の蟹気楼	②景勝・古跡	③遠景
126	八橋杜若 古跡	②景勝・古跡	③遠景
127	今切	②景勝・古跡	③遠景
128	遠湖 彫江村 館山寺	②景勝・古跡	③遠景
129	赤坂 宝樹庵	②景勝・古跡	③遠景
130	菊川	②景勝・古跡	③遠景
131	宇津山高細道	②景勝・古跡	③遠景
132	連歌師宗長の古跡	②景勝・古跡	③遠景
133	薩埵山	②景勝・古跡	③遠景
134	興津川	②景勝・古跡	③遠景
135	薩埵山東麓 西倉沢茶店	②景勝・古跡	③遠景
136	富士裾野	②景勝・古跡	③遠景
137	原駅 松陰寺白隠和尚古跡	②景勝・古跡	③遠景
138	江ノ島海浜	②景勝・古跡	③遠景
139	七里浜	②景勝・古跡	③遠景
140	品川御殿山の花見	②景勝・古跡	③遠景
141	粟津松原	②景勝・古跡	④超遠景
142	本野原富士	②景勝・古跡	④超遠景
143	佐野中山	②景勝・古跡	④超遠景
144	三保入江	②景勝・古跡	④超遠景
145	三保の松原	②景勝・古跡	④超遠景
146	久能山からみた三保崎	②景勝・古跡	④超遠景
147	富士山の裾野	②景勝・古跡	④超遠景
148	富士山	②景勝・古跡	④超遠景
149	富士山	②景勝・古跡	④超遠景

千葉氏の「近景・中景・遠景・超遠景」の4視点による『江戸名所図会』の分析は、『東海道名所図会』の挿図解析にも応用しうるものであり、著者は『東海道名所図会』所収の画像199点を前述の、「①神社仏閣」「②景勝・古跡」「③建築物」「④繁華の場」「⑤市場・生産の場」に分類し、さらに千葉氏の4つの視点分析と組みあわせた〈表1〉。

その結果、近景（78点）・中景（18点）・遠景（77点）・超遠景（25点）という結果が得られた。概して、神社・仏閣・古跡は、遠景ないし超遠景で描かれる。一方、人々が作り出す繁華の場・市場や生産の場は、近い視点から描かれているのである。

3 今後の展望

『東海道名所図会』は、秋里籬島による東海道の実地調査と古典籍・古歌の引用文、30名を超える絵師の挿図による「見て楽しむ地誌」であった。知識人向きの本屋から出版され、古歌・古典籍からの引用がなされて情報量が多いが、漢字には読み仮名

も多く付けられ、武士階級はもちろん、文字に通じた農・工・商階級も楽しむことができる情報媒体であった。挿図の人物描写は典型的で、士・農・工・商の階級、男女の老若・職業などは、現代の我々でも比較的容易に見分けることができる。ましてや当時の人々ならば、髪型や服装・持ち物などから、さらに微妙な階級間の差異、時には性的な記号など、多くの情報を理解したと考えられる。しかしながら、現代の我々がそれらを見分けることは難しい。また人物以外の、背景に描かれた器物の名・建物の様式などは、多くの専門研究者の知識がなければ解読が難しい。今後は数十種類ある「名所図会」の画像を横断的に集め、データベース化していくべきであろう。図像の種類では、庶民の経済活動を描いた「④繁華の場」「⑤市場・生産の場」が、視点では「近景」「中景」から対象を捉えた画像が主要な分析対象となっていくと考えられる。一方「遠景」や「超遠景」の視点、上空から広範囲を見渡す鳥瞰図的画像が読者に与えた「視覚的快感」の歴史的意味も考察されるべきだと考える。

（とみざわ・たつぞう）

【注】

- (1) 『続燕石十種 第二巻』（中央公論社、1980年）278～280頁所収。なお、『新版 都名所図会』（角川書店、1976年）の竹村俊則氏の解説文にも全文が掲載されている。
- (2) 秋里籬島は名所図会をはじめ、数々の書籍を世に出した当時のブックメーカーであり、作庭家でもあったというが、その伝記は不詳である（前出、竹村氏解説書）。このほか、籬島の軌跡を追った論考に、浅野三平氏の「秋里籬島」『近世中期小説の研究』（桜楓社、1975年）がある。
- (3) 篠原曜『諸国名所図会に描かれた近世後期の経済活動の諸相』（2000年、神奈川大学大学院経済学研究科経済学専攻、修士論文）では、刊行年不明の9点を含め、86種類としている。なお、篠原氏のデータでは『都名所図会』より前の名所図会として『日本山海名所図会』（宝暦4年）、『東国名勝志』（宝暦12年）を挙げている。これは、二書が後世の「名所図会」ものに与えた影響の大きさを重視したことによる。また同氏は「名所図会」ものは、京都→大坂→江戸→各地、の順に作られたと分析する（前掲書、20頁）。
- (4) 神奈川大学COEプログラムで所蔵する原本、粕谷宏紀監修『新訂 東海道名所図会』全3巻（ペリカン社、2001年）、同『東海道名所図会を読む』（東京堂出版、1997年）を参照した。
- (5) 加藤貴「行楽と信仰の流行度 一名所番付とお国自慢意識」（林英夫・青木美智男編『番付で読む江戸時代』柏書房、2003年）、青木美智男「地域の自覚 往来物と名所図会」（井上勲編『日本の時代史29 日本史の環境』吉川弘文館、2004年）参照。
- (6) 「巻之一」の「日吉山王三十六歌仙人」は3分割されているものを1点としてカウントした。
- (7) 矢矧橋は、『新訂 東海道名所図会 [中]』98頁、豊橋は同書129頁に掲載。勢田橋は『新訂 東海道名所図会 [上]』218頁。
- (8) 「巻之三」所収。前出『新訂 東海道名所図会』中巻160頁参照。
- (9) 青木美智男氏も、地誌としての名所図会でも注目すべきこととして「特産物の生産光景や流通の拠点として繁栄していた在方市や港町などを新名所としてクローズアップするに至った点」を指摘する。前出・青木論文「地域の自覚 往来物と名所図会」、140頁。
- (10) 千葉正樹『江戸名所図会の世界 近世巨大都市の自画像』（吉川弘文館、2001年）91～92頁、同『江戸城が消えていく江戸名所図会の到達点』（吉川弘文館、2007年）154～154頁。